



大樹のこころ

四つの良さ

11月12日(火)13日(水)の両日修学旅行に行ってきました。修学旅行は数ある学校行事の中でも「別格」です。この旅行を楽しみにしていたのは子供たちだけではありません。担任の先生も子供たちとの良き思い出を作ろうと準備をしてきました。自分は、この旅行で四つの良さを見つけました。

一つ目は「天候に恵まれた」ことです。先週は急激に気温が下がり、寒さが予想されましたが、全く心配ありませんでした。それどころか奈良・京都は暑いぐらいで、外国人観光客の中には半袖半ズボンの方もいたぐらいです。爽やかな青空の下で観光を楽しむことができました。

二つ目は「楽しむ場面と学ぶ場面の切り替え」ができたことです。修学旅行は文字通り「修学」なので、学びがなくてはなりません。旅行前には「ガイドさんの話をしっかりと聞こう」と指導するものの、現地に行くとなおざりになりがちです。しかし、今年の6年生は説明を聞きながらメモを取る姿を多く見ることができました。このように綴ると、ちょっと息苦しい旅行のように思われるかもしれませんが、楽しむ場面ではみんなで盛り上がることもできていました。ある学級ではバスの車内でカラオケ大会となり、帰着途中で「最後の1曲」をクラス全員で大合唱するなど、感動的なシーンも見られました。

三つ目は「子供たちが自分の言葉で語れる」ということです。出発式やバス車内で行われた帰着式、食事会場や旅館の方への挨拶など、子供が言葉を述べる場面が多々ありました。その際に、子供たちがその場に応じて臨機応変に喋ることができており、とても感心しました。教師が用意した原稿でなく自分の言葉で語れるのは、子供自らがきちんと考えている証拠です。素晴らしい6年生に成長していると思いました。

四つ目は「教師が指導する場面がなかった」ことです。集団での旅行となると、何かしらのトラブルが発生します。「約束を守らない」「時間に遅れた」「友達とけんかした」などです。しかし、今年の旅行では一つもありませんでした。これは日頃の学校生活が丁寧にして穏やかに送れており、子供たちの人間関係が良好である証拠です。先生方も指導する必要がないので、みんなで気持ちよく旅をすることができました。

例年、修学旅行が終わると「卒業」という二文字が頭の中に浮かんできます。この素晴らしい6年生との別れを思うと、今から切なさがこみ上げてきています。



11月15日(金)、警察署の方を招いて薬物乱用防止教室が6年生を対象に行われました。中学校に進学する前に、薬物に対する正しい知識をもつことは大切です。子供たちは薬物の恐ろしさを学ぶことができました。

